

# 体験版

萌える空戦  
キャットファイト2

ラバウル  
乙女航空隊

スズキケイ

スズキユメ

## キャラクター紹介

いわもとけいこ

**岩本恵子** 十四才。リアル中学二年生。物語のヒロイン。

階級は二飛曹に昇進。服装は、Tシャツとホットパンツ。

横須賀の民間飛行クラブでアクロバット訓練を受けていた飛行機操縦のプロ。飛行機が好きで、バーチャル太平洋戦争ゲームにエントリーした。別名、空中芸人。

挨拶には『なんちやって敬礼』（両手の平を頭に乗せる敬礼）を所かまわず空戦中でも用いる。さわやかショート髪の美少女。

はわだ

**葉和田ななこ** 九才。小学三年生。

大斑海軍航空隊司令。大佐。

服装は、白詰襟に白スカート。白制帽も被っている。

IQ二百の知能幼女。

性格は、頭は良いが、わがままで見栄っ張り。すぐに感情的に取り乱す。

さかがみれいか

**坂上麗華** 十四才。大斑空・飛行隊長。大尉。

服装は、南洋の野戦軍装。下はミニスカ。

冷静な指揮官。空戦技術より統率力に秀でる。

エントリーした戦争ゲームの世界観を把握した上で、作戦を遂行で

きる優秀な隊長。  
時々、真面目な顔で人をあざむく。

ひがしくじまり

**東籤茉莉** 十四才。通称、冥途小隊長。大尉。

服装は、白ビキニ。

日仏ハーフのお嬢さま。撃墜数No.1のエース。

別名、地獄姫。

独自の空戦美学で敵を撃ち落とす戦闘機操縦のプロ。

彼女だけ最新鋭の白ゼロ戦五六型に乗っている。

みやのこうじまろまろ

**宮小路曆磨** 十四才。冥途小隊二番機。中尉。

茉莉お嬢さまに使えるメイド長。服装はメイド服。

特徴は、垂れ目とやさしい言葉使い。つねに主人を立てて二歩下が  
る慎ましい乙女。

メイドだけでなく、執事も空戦もこなす万能乙女バトラー。

にしざわ

**西澤イリヤ** 十四才。通称ゴシック小隊長。少尉。

ゴシックドレスの元ヤンキーバイク乗り。服装は、黒ゴスロリ。

別名、ゴスネエ。

視力がよく、動体視力は霊能者なみ。靈感偏差射撃で、撃墜数No.2  
を誇るエース。ただしヒネクレ者でサボリ癖がある。

バーチャル南洋の暑さにバテるが、空戦では大活躍。

**エリーゼ・ツンデル** 十三才。通称ツンデレ小隊長。飛曹長。

国籍はドイツ。ナチ軍装マニアの留学生。

金髪ツインテールと碧眼の吊り目が特徴。性格はツンデレ。

服装は、ルフトバツフェ軍装。

パイロットセンスは優秀で、先祖に有名なドイツ人撃墜王がいる。  
挨拶にはナチ式敬礼とジーク・ハイルを用いる。

おおみやすずね

大宮鈴音 十三才。通称、野獣小隊長。上飛曹。

服装は、白体操服にブルマ。元体操選手。

野性的な運動能力を持つ攻撃型ネコミミ娘。

食通で南洋の食べ物を暴食する。

小隊統率に秀でるベテラン下士官パイロット。

きつねみみこ

狐巫巫女 十三才。野獣小隊の二番機。二飛曹。

服装は、巫女服。

本業も巫女。ときどき予言を口走る神道系狐っ娘。

小隊長の鈴音を補佐し、鋭い突っ込みを入れる脇役。

つきのとこ

月野兔子 十一才。野獣小隊三番機。二飛曹。

服装は、ウサミミカチューシャにアリス服。別名、バニーガール。  
ユニークな仲間に隠れて目立たないが、複雑な過去を背負ってバー  
チャル・ラバウルの戦場へやって来た。  
その謎の過去が今回の空戦で明かされる。

なかのみき

中野美紀 十三才。整備兵曹。ゼロ戦の整備員。岩本恵子機担当。

服装は、野戦服に短パン。  
頭に二本の触角を持つ娘。

リアル世界では飛び級で大学院に通っている理系の秀才。  
アメリカから輸入部品の無くなったクルシー（自動帰投装置）を自力で組み立て、ゼロ戦に取り付けたり、栄エンジンのチューンに力を発揮する。レーダーや無線の改造も行う。

くさしたたつのこ

草下龍之子 十二才。小学六年生。海軍中将。南東方面軍、第十航空艦隊司令長官。

服装は、夏向きワンピースに中将の肩章と勲章だけ取って付けている。制帽もたまに被る。正装は舞踏会用の赤ドレスを着用。

バーチャル・ラバウル航空撃滅戦の日本側総指揮を取る葉和田ななこ大佐の上司。リアル日本の上流華族。

独自の作戦計画でリアル歴史とは異なる突飛な戦線を張る。小学六年の少女軍略家。

くろだ

黒田 謎の政府高官。中年のオヤジ。

リアル世界の女の子を徴兵してバーチャル世界の戦場へ送り込む徴兵担当情報員。様々な肩書を持つ。  
美少女ゲームのファンらしい。

A C T 3 銀翼を連ねて

1

坂上麗華は、高度三千メートルを飛ぶゼロ戦のコクピットから、風防を開けて風景を見渡した。

海拔四千メートルのスタンレー山脈が、山頂に雪を乗せて、遠方の雲上に連なっている。

山裾には濃緑色の熱帯雨林のジャングル。

澄んだ南の海には、サンゴ礁に覆われた島々、ビスマルク諸島が点在していた。

「あれがニューギニアか」

始めて見る南洋の高山とサンゴ礁の海。そして海風の匂い。

熱帯の風がコクピットに吹き込む。

高空では、熱帯でも気温は低く、とても涼しい。

並んで飛ぶ乙女飛行隊、列機を見回せば、みな風防を開いて風を受けて飛んでいる。

「やつと着いたですわねえ。南半球のラバウルに」白ゼロ戦のマリーお嬢さまも、すばらしい風景に感動ぎみ。金髪巻き毛が風になびく。「じゃんじゃん敵を撃としますわよ」

「私、椰子の実とパイヤと、白米に乗せたカツオのタタキが食べたいな」と大宮鈴音がブルマ姿で無線でしゃべっている。

「ラバウルにカツオっているのか？」ゴシックドレスの西澤イリヤが黒ゼロから聞く。

「いるよ。ちゃんと戦史資料を読んだもん。釣道具もしっかり積んできたよ」

「準備がいいなあ」と感心するイリヤ。「休日は水偵を借りて沖合で釣るか」

「おうよ。喰うぜえ。ご当地の味を喰うぜえ」

「でも鈴音ちゃん、熱帯の生魚は避けた方がいいですよ」列機の巫

女服、狐巫巫女みみこが小隊長に注意する。「ちゃんと火を通して調理して

から食べなさい」

「いやじゃ！ 新鮮な刺身がよい！ 胃袋には自信があるのじゃ。

敵機も魚も喰いまくり。にやはは」鈴音の口から涎が飛ぶ。

坂上隊長は手を前方へ振って降下の合図をする。

編隊十二機のゼロ戦は一斉に翼を振ってそれに答えた。

九州の大斑航空基地から途中給油のイオウ島、マリアナ諸島のテニアン島を経由して全行程四千キロ以上。

一行は、長旅の到着地であるニューブリテン島ラバウルに降りて行く。

島の東端にある入り江と、湾に面した東飛行場の大きな滑走路が見える。

飛行場横の噴煙を上げている活火山、花吹山が航空目標だ。

十二機のゼロ戦が順番に脚を出し、滑走路に降下をはじめた。

「あつ、後方に敵機！」大宮鈴音がいきなり大声で無線に叫んだ。「真後、上空！」

降下中でも周囲の見張りを怠らない鈴音が、空を見上げている。

上空五千メートル付近の南海上に敵の編隊が見えていた。

「なんだ、脅かすな」と坂上隊長。「真後って言っても、遙か彼方だよ」

「楢田の主翼だ。珍しい。スピットファイアだ」黒ゴス姫が吊り目で睨んで機種を告げる。「レンジの広いMr・VIIIの改良型かな」

「豪州軍機ですわね。モレスビー基地の連合航空軍でしょう」上空を見つめるお嬢さま。「やっぱりここは南半球ですわ」

「でも、どうする」と黒ゴス姫。「攻撃してくる気配はないぞ。偵察だろう」と言って気楽にタバコの煙を空に吐く。

「ならば攻撃しかけるまでよ！」ブルマ鈴音がテンションを上げて降ろした車輪を引っ込める。「ここは航空撃滅戦の修羅場だぜ。飛行機を落さなきゃ負けなんだから。ゲームでも勝ちに行かなきゃ来た意味がないよ！釣りは後回し」

タッチ・アンド・ゴーで急上昇を始めた。

増槽は全機すでに使い切り、洋上で落している。

「鈴音ちゃん、私も負けないですう」とバニー兔子がウサミミを立てて山猫隊長に付いて行く。

「やっぱりウチの小隊は野獣どもです」と言いながら巫女服も後を追う。

「わたくしも参戦いたします。わたくしスピットちゃん好みですわ。外觀が美しいですもの。優雅に白煙吹かせて墜としてさしあげます」スコアに執着する地獄姫が続く。「お嬢さま、お待ちを」と、まろまろとメイドA子も急上昇してついて行った。

「ワタシ、もう暑さでダメ。降りる」と長袖ゴス姫はバテて黒翼を下げ、飛行場へ降りて行く。初戦からサボリ癖。

「よし。体力に余裕のある者は鈴音機に続こう」坂上隊長が言う。暑さに弱いゴスロリ小隊と、荷物スペースに葉和田司令を乗せているエリーゼ・ツンデル機（テナアン島で恵子機から乗せ換えた）が下に降り、残りが敵を追った。

身軽になった岩本恵子も飛行を続ける。

二次大戦時のイギリスの代表的戦闘機スピットファイア。

西はドーバー海峡の空を舞い、砂塵舞う北アフリカの空では、防塵フィルターを付けてメッサーシュミットと空戦をやり、東はインド、ビルマ、ニューギニア戦線に投入され、日本機の隼、ゼロとも戦った。

イギリス植民地全体にばらまかれた英連合王国の象徴的名機だった。

火力に優れ、片翼に4門ずつの計8門の機関銃を備える。

ロールスロイス社製のエンジンは優秀で最高速度はゼロ戦より早い。

ゼロ戦隊が後方から追尾し、敵スピットの編隊に近づく。敵は縦列六機。巡航速度で飛んでいるが、縦に長く間隔が開いて、編隊飛行に慣れていない様子がわかる。

やはり敵も即席空軍。

しかし、個々の操縦技術はうまく、ぴったりと速度を合わせて、ぶれがない。

主翼に弓の標的のような三重円が見えた。英連合・豪州乙女軍機だ。

岩本恵子は、特別チューンの好調なエンジンで鈴音とお嬢さまを追いつ越し、スピットファイアの最後尾機に追いついた。

すでに照準の中に機影が入っている。

機体の尾翼に撃墜マークがある。敵のエースだ。

しかしこの最後尾のスピット、なぜか主翼に星のマークが付いている。一機だけアメリカ軍機が混じっていた。教官だろうか。

その時、敵のパイロットが気付いて、風防を開けたコクピットから後を振り返った。

外国人の乙女。

顔まではっきり見える。

風防を開けたまま風を受けて、金色の長い髪がなびいている。

瞳の色は、濃い緑色。ゴーグルを外して、エメラルドのような瞳が、こちらを見つめている。

恵子はハッとすると。

「やっぱり、敵機にも人が乗ってるんだ……」当たり前前の事実に驚く。

二十ミリ発射レバーを握った左手が躊躇して止まる。この距離で二十ミリを撃ち込んだら、相手は確実に死ぬ。機体も一瞬で空中分解を起こす。落下傘で逃げる暇もない。

ゲームでも心が揺れる。

スピットならダイブして逃げればゼロ戦では追いつけない。逃げ

てくれるのを恵子は待った。

その一瞬、敵乙女の顔が引き締まり、眉が跳ね上がったように見えた。

スピットの昇降舵が急角度で動き、機体が急上昇し反転した。ダイブして逃げずに宙返りで向かってきた。

「えっ！」と驚き、油断した恵子は直進で通過、上空を目で追うと敵機が背面宙返りで旋回している。

上空で失速しながら、スピットの機影が横転から機首を垂直に下げ一瞬で突入してきた。

めくるめく瞬間の空戦機動。十二ミリ弾が雨のように降って来る。

「あれは、あの技は……！」恵子が目を見張る。「失速左ひねり込み！」スピットは恵子の後方を飛んでいたカモ機、お嬢さまの三番機、メイドA子を即座に見つけ、八門の機銃を浴びせながら急降下。

メイドA子は、機体を九十度バンクして射弾をとっさに避ける。こちらも操縦技術は上手い。

しかし、八門の弾幕を垂直に浴びては避けきれず。片翼からガソリンを噴き出し、一瞬で火を吹いた。

風防を開けたメイドA子が、火炎をあびてパニックになりながら、慌てて座席バンドを外している。

「ぎゃーっ！ いやあーっっっ！ お家が火事ですっっ！」と悲鳴を上げ、機体をくるりと背面にして、そのまま、ぽろりとコクピットから逆さに落下。

脱出の手際が実に早い。

落下傘が開いて、ニューギニアの空に、メイド服がふわふわと落ちて行く。

被弾したゼロ戦の機体は、火炎に包まれ、一瞬で爆発、四散した。敵スピット編隊は散開したまま優速を活かして猛スピードで海へ向かい、低空で海上へ抜けて消えた。

「やるな連合乙女！」鈴音が言う。「ゼロ戦の得意技で日本のメイドさんを撃墜するとは」

追撃しようにも燃料も少なく、反撃を諦めた坂上中隊は、長旅の機を休ませるべく、全機反転を伝えて目的地ラバウルへと降下した。

来着早々、損耗一機。  
敵の錬度もエース級。最前線のソロモン海域にすることを思い知る。

サンゴ砂が滑走路に舞い上がる。

東飛行場に見事な三転姿勢で、ぶれもなく舞い降り、次々とタキシングして列線に並ぶ大斑空の十一機。

出迎えるのは先着してラバウルを守っている201航空隊の乙女士官だ。しかし、遠征で部隊が出払っているのか、基地は妙に人の数が少ない。

「長旅、御苦労さま！ 海上で落下傘降下したパイロットは、ウチの掃海艇が拾い上げましたので。メイドさんは無事との連絡です」  
野戦軍装をした乙女士官が、地に降り立った葉和田司令と坂上麗華、以下隊員たちをねぎらう。

クラス委員長風の眼鏡っ娘である。

「早々にどうも。お世話になります」と坂上隊長が直立敬礼した後、さらに深深と礼をする。

「葉和田大佐、草下長官が司令部でお待ちです。他の皆さまにも、ささやかながら歓迎の宴を用意してありますので」と士官は敬礼してにつきり。

僻地でもサービスのよい乙女帝国。さすが少女ばかりの南洋の花園。

葉和田大佐は、ラバウル市内の高台にある海軍司令部へ向かうため、回された黒塗りのベンツに乗り込もうとする。

しかし顔色が悪く足元がふらふら。

テナアン島で恵子機から、安全なツンデル機に乗り換えて現地入りしたが、飛行機酔いで平衡感覚が戻らないようす。

「お疲れですね、司令。同行してあげましょうか」と坂上大尉が上司を気遣って声をかける。

「大丈夫ですよ！」と、目を回してふらつきながら見栄を張って白詰襟のナイムネを張る。

「私、これでも航空隊を預かるヘッドの司令ですの。自分で歩ける

ですのっ」

しかし、ベントの助手席に足が上がりず、またふらついて、はわくと喚いて頭からコケた。

「ななこちゃん、しっかり！」と後ろから見ていた一同が声援を送る。

「まったく、うちのお姉ちゃんたちは、体力も超人並みですよ！」  
葉和田大佐は顔を赤くして悔しがる。

そこへ後から東籤マリーお嬢さまが、鬼のような顔で駆けこんで来た。

「水上機を一機、貸してちょうだい！」

「水上機って……」

「うちのA子をすぐ拾いに行くから！」

「いや、大丈夫。もう無事救出されたそうだ」と坂上隊長が冷静に言う。

「私の部下ですから、わたくしが直接、引き取りにまいります」語気強く言う。「港に二式水偵が一機あいてるわね。わたくしが乗って飛ばすから指揮所に言つといてっ！」と副官権限で独断し、飛行場に転がっていた自転車へ飛び乗り、ナビゲーターにまるまるちゃんを荷台に乗せ、白ドレスを捲り上げて港へ向けてペダルを漕ぐ。ドレスとメイドで二人乗り。

「なんだなんだ、おい」と汗まみれのゴス服のイリヤが言う。「お嬢、疲れも見せず鬼のようだな」

「まさか、部下への鬼コーチの折檻ですか」とブルマ鈴音。「精神注入棒って、海軍名物だよ。棒で尻をぶっ叩くやつ」

「マリーさんDSなんだから。フランス人はサドで退廃なんだから」とドイツ軍装のエリーゼ・ツンデル。「きつい主人の下でメイドさんかわいそうなんだから」

「きっと秘密の部屋で三角木馬に座らされるです」とウサミミの小学生、月野トコが言う。「足に重石を付けられて縛られて目隠しされて鞭で打たれるです」

「トコちゃん、まさかのMだったのか。危な杉」巫女服が呟く。

岩本恵子は、複雑な思いで意気消沈。

あの時、迷わず敵を銃撃していれば、メイドA子は撃墜されずすんだのだから。

一同がざわついている処へ、ボロい三輪トラックが航空隊の診療所前へ横付けされた。

海へ落下したメイドA子が救出されて、びしょぬれメイド服で車から降ろされてくる。

自転車で引き返したお嬢さまが、追いかけて来た。

「A子ちゃんたらああああーっ！ このバカたれがあーーっ！」鬼のような顔で叫んで駆け寄る。

「お、おい、誰か止めたほうがいいんじゃない……」と鈴音が青くなってしまう。

一同、慌てて駆け寄るが、一瞬茫然としてその場に立ちすくんだ。

地獄姫は、メイドA子に猛然と抱きつくと、頬をよせてすりすり。頭をナデナデしている。

「もー心配かけて、おバカナ子っ！ ケガは、ケガはないかしら？ 火傷してない？」

「……は、はい。日ごろのご指導のたまものでございます。脱出は完璧にできました」

エプロンの裾を両手で絞って海水を落す。

こちらにも可憐な萌え乙女。

「海にサメがいましたが拳銃で容赦なく次々撃ち殺して参りました。近くで共食いを始めて少し怖かったです」泣き顔。「でも、お嬢さま、大変な粗相を。飛行機を損耗させて面目なし、相すみませぬ、でございます」と深深と頭を下げる。

「いいのよ、いいの。パイロットの命のほうが大切。敵の技量が上だったんだから、しょうがないですわ」妙に慈悲深いお嬢さま。

「今度はあのスピットを容赦なく撃ち落としておあげなさい。借りは返すのが東籤一家、冥途小隊の家風でございます。明日から、また気合入れてまいりますわよっ。最前線で生き残るには訓練あるのみ。練成にはいりますっ！」

「はい！」

メイドA子はその場でびしつと敬礼をする。

「お嬢さま、ひねりこみの技を教えてください！」

「よっしゃあ、まかせなさいっ」

主従ともに、よく訓練されている。

一同、冥途小隊の結束のよさに目を見張る。

「よかった。A子ちゃん無事で」と、ほつとする恵子。「でも、マリさん。人に対する表裏が激しいような……」と不満げに呟く。

\*

乙女運転手付きのベントは、砂利の坂道を登り、ラバウル市街を見下ろす高台、通称、官邸山にある西洋風の建物へ付けられた。

かつてドイツ領時代の総督が使っていた豪華な建物だが、現在は日本乙女軍が接收して、陸海軍合同司令部として使用している。（日本乙女軍は海軍と陸軍がとも仲が良い。一緒に作戦を組んでいる）。葉和田大佐はさっそく、上位組織である第十一航空艦隊司令長官、

くさしたたつのこ  
草下龍之子中將の執務室へ通される。

「内地より空路の長旅、御苦労であった」

「続きは製品版でお願いいたします。  
ご主人さま。きあつ！ タンクに被弾、  
後ろにいるのはペロハチねっ」

とメイドの宮小路麿ちゃんが、ゼロ戦のコ  
クピットから空中無線を送って来て……途絶え  
た。